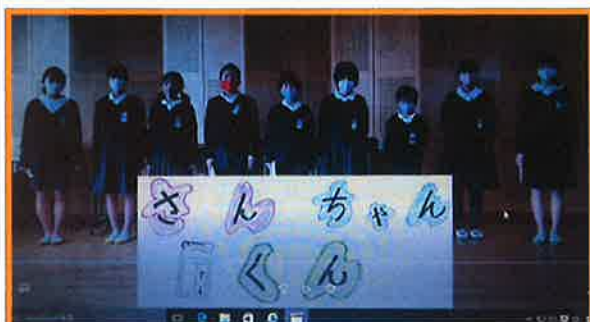


学校通信『自分に自信と夢を』 第85号 文責 古澤

後期の取組① ～「人権スローガン」を意識して～ 相手をきずつけない言葉で自分の気持ちを伝え、友達の相談にのれる仲間になろう



人権メッセージ

大津小では、「命を大切にす大津小」・「友だちに優しい大津小」を目指し、授業や行事をはじめ様々な機会を捉え、命や友だちのことを学び、考えたことを行動や態度に現れるように、年間を通して人権教育を計画的かつ総合的に推進しています。

後期後半でも、1月25日(月)から2月24日(水)までを第3回校内人権月間と位置付け、人権学習等に取り組んでいきます。1月22日(金)には、昨年の

10月17日に開催予定でした「大津町児童生徒集会」に参加予定だった児童会と人権委員会の9名の皆さんから、朝自習の時間に動画を使って下記の「人権メッセージ」が発信されました。

(前略) 新型コロナウイルスの拡大が心配され、大津町児童生徒集会は中止になりました。とても残念なことですが、大津町児童生徒集会がなくなったからといって、私たちが、いじめや差別を許さないという思いを持ち、一人一人が考えて行動することを止めてはいけないと思います。私たちは、昨年度の大津町児童生徒集会で承認された宣言文を読み返しなが、今の自分のクラスや大津小について考えてみました。

まず、大津小学校全体できていないところについて考えました。それは、人権学習に対する気持ちの差があることです。具体的に言うと、人をたたいたり、人が傷つく言葉を言ったりする人がいることではないでしょうか。みなさんは、さん、君、ちゃんをつけていますか。一人一人が相手の気持ちになって考えることができれば、このようなことは起きないと思います。人権学習で学んだことが、生活の中の行動につながる大切だと思います。

次に、みなさんができていることについて考えました。一つ目は、「分かりません、教えて」を言えるようになってきたこと。二つ目は、周りの人に呼びかけができてきていることだと思います。この二つは、自分が思っていることを、周りの人に伝えることができているということにつながると思います。

そして、最後に、これから残り三ヶ月、私たちにできることについて考えました。一人一人が、学校に行きたいと思える学級、学校にするため、「みんなに伝えたいことを言える時間」を作ったり、積極的に人に話しかけたりすることができると思います。友達が話しかけやすい自分なのかを振り返ることも大切です。これをする中で、お互いの思っていることを知ることができるのではないのでしょうか。

(中略) 来週からは、校内人権月間が始まります。私の児童会の公約には「お返しの花」というものがありました。この取組は、悩みを気軽に言えるようにと思って考えたものでした。人権月間では、困っている人の声に耳を傾け寄りそう期間になってほしいです。新型コロナウイルスの心配もまだ続きますが、同じ思いを持った大津小の仲間がいつもそばにいます。みんなでがんばっていきましょう。

第2回人権月間の取組の中から

人権学習

4年2組 総合的な学習の時間(人権学習)
題材名「ずっと言えなかったこと」
授業者：田中大智先生、渡邊由美先生



担任の先生や友だちの思いを聴き、自分や学級と重ねて考え、温かい返しをしていく学級集団づくりと、自分の思いを言葉で伝えることの大切さを学習しました。

人権集会

感染症対策のため例年実施していた低・中・高学年ごとの人権集会は行わず、各学年で工夫して行いました。高学年は、きょうだい学級で分散して行いました。5年生は水俣学習で学んだことを、6年生は平和学習で学んだことを発表し、高学年としての行動や学級づくりについて、積極的に意見を交換して行いました。

